



公議所日誌

第六下至一九

U5  
231  
4



明治二年己巳五月

公議所日誌

第十六下



公議所日誌第十六下

第十号議案撮略

切腹禁止可然ノ議

右評論鈔出

議政官史官

小野清五郎

藤田克之助

議案中本邦云云ヨリ承及候迄ヲ刪去ラバ如何  
我邦自古切腹シテ義ヲ全フスル者多シ且切腹  
ノ事皆廉恥上ヨリ起ル之ヲ禁ゼズシテ廉恥ノ

公議所日誌十六下

心ヲ養ハシム亦強兵ノ一端ナリ

輕部鷓彌

罪ヲ悔テ直チニ屠腹スルハ死シテ跼躅ノ苦ヲ免ル何ゾ刑憲ヲ蔑スト云ハンヤ何ゾ罪科ヲ償ト云ハンヤ死シテ漸ク人タルヲ得ルナリ活クレバ素ヨリ姦邪ニシテ死スレバ始メテ廉恥タル可シ強テ之ヲ禁ゼバ廉恥ノ公道ヲ鎖シテ姦邪ノ私道ヲ開カン

平山志右衛門

切腹禁止ノ議至當ト存候得共皇國ノ士風凜然西洋各國ト異ナリ之ヲ禁ゼント欲セバ先ヅ法度律令ヨリ漸々施シテ西洋各國ノ風ニ移ラザレバ只切腹ノ一議ノミヲ行ハント欲スルモ恐クハ難カラシ

吉田權藏

死刑ニ處スルハ典刑ニ觸ル、處ミシテ固ヨリ不得止トナレ氏士道廉恥ヲ以テスルガ故ニ切腹ニ行フトニシテ尋常奴隸ノ罪人ニ比シ難シ

公議所日誌十六下

又其罪未ダ定ラザルニ切腹スルハ不經ノ甚キ  
ナリ國典アリ遁ル可ラズ假令死後ニテモ罪ヲ  
正シ夫々ノ處置アリタシ

柏木兵衛

方今ノ急務ハ基本ヲ立ツルニアリ切腹ノ如キ  
ハ基本立テノ上議スルモ晚カラズ

中野重明

我神州ノ士罪ヲ含ミ割腹スルヲアリ此舉禁ス  
可ラズタトモ禁スルモ割腹者後日ヲ顧ズ豈之

ヲ拒ムヲ得ンヤ且是レ即チ日本魂ナリ寧ロ窮  
理上ニ刑ヲ省カンヨリ武門ノ士ヲシテ廉恥ノ  
風ヲ興起スルノ刑アルニイヅレ是レ皇國ノ  
外國ニ冠絶スル所ナリ

加集寛介

大略同論

今井金平

切腹ヲ稱揚スルハ所謂義氣廉恥ヲ尊ブナリ其  
罪未ダ定ラザル者自ラ屠腹シテ其罪ヲ償フト

三  
モ豈徒ニ斯ニ至ル者アラニヤ然ルヲ今之ヲ禁  
ゼバ後世柔弱ノ風ヲ導カン

大略同論ノ者

羽室雷助 四王天兵亮

加藤修造

切腹ノ科ハ存スルヲ可トス命ヲ待タズ自ラ切  
腹スルハ之ヲ禁ズ凡用ヒザルベシ因テ之ヲ存  
シ士大夫ヲシテ自ラ其廉恥ヲ養ハシムルニ如  
カズ

近藤幸止

我國西洋ト士ヲ養フノ道自ラ異ナリ專ラ義氣  
ヲ引立ル事ナレバ之ヲ禁ゼバ士氣頽敗却テ國  
家育材ノ御趣意ニ戾ルベシ

大略同論ノ者

中澤見作 友松勘之丞 和田理兵衛 岡本太郎

栗山誠一郎

不朽ノ國是ヲ定ムルニハ國體ヲ立開鎖ノ二字  
ヲ詳ニスルヨリ急ナルハ無シ否ザレバ定律ヲ

討論スルノ間或ハ開鎖混淆ノ議彼是矛盾ノ説  
モ有之ベクト存候今議案中西洋各國ニ絶テ無  
キ所ト云云是レ蓋シ彼是教ヲ異ニスルノ然ラ  
シムル所ナリ且議案ニ云云スル所ハ自殺ヲ禁  
ズルノ意ナルベシ然レドモ自殺スル者ハ自ラ  
罪ヲ知テ自殺スルナリ何ゾ不可ナラン況ンヤ  
命ヲ受テ自殺スル者ヲヤ如此ノ類彼國體ニ因  
テ吾國體ヲ論ゼバ開鎖混淆矛盾ノ説ニ決ル  
ベシ

武田平之助

割腹等有之ハ本邦ノ美俗ニシテ海外諸國ニ殊  
絶スル所以ナリ益廉恥ヲ磨勵シ士氣ヲ鼓舞ス  
ベキニ却テ之ヲ禁ゼントハ國家ノ元氣ヲ損シ  
固有ノ和魂ヲ奪フナリ之ヲ禁バル決シテ可ナク

大略同論ノ者

河口市之進	山本四郎	関	左門	鈴木才藏
二階堂貢	飯田逸之助	鎌田平十郎	津川奇雲	
三田稱平	澤邊弘三郎	富野兎助	太田省吾	

平井東馬	藏田寛之助	赤見為右門	高柳安左門
増田 貢	望月太兵衛	岡野小平治	坂口音度
仙石左兵衛	三橋 肇	久松修理	加藤小左衛門
片岡旗之助	大田原高	毛受將監	小林儀左衛門
高木東一	岡本直記	小泉重兵衛	麻見達左門
白石左衛門	戸田 保	桑原政右門	峯岸正愿
宮田深藏	横手五左衛門	清水右衛門	加藤右門
山本昇之助	高木大之進	永野壽郎兵衛	持永治兵衛
岡田 孝	戸塚近衛門	生田小膳	

児玉 精

士ヲ刑スルニ屠腹ノ典アルハ至當トス有罪疑  
 似 朝裁ヲ待ザル者事不經ト雖モ亦槩論ニ難  
 シ或ハ廉恥感動シ不得已此ニ至ル者アリ之ヲ  
 禁ズル徒法ナラン

大略同論ノ者

田丸謙藏 小原兵部 青中郎左門 大津武五郎  
 池田勲二郎

割腹自盡ハ本邦ノ士勇敢氣節ニ出ル所ナリ故

公議所日誌十六下



ニ自盡ヲ聽シ或ハ之ヲ命スルハ士氣ヲ培養ス  
ルノ道ナリ且士以上ハ磔罪梟首ヲ除クノ外斬  
ニ處ズベキ者自盡割腹ヲ命ズルモ可ナラン

鶴居彦左門

大略同論

死ヲ賜ヒ割腹スルハ刑律ノ一ナリ之ヲ禁ズレ  
バ政體ニ差支アラシカ且命ヲ奉ゼズシテ自殺  
スルモ或ハ君父ノ為メ或ハ義理上忍ブ可ラザ

磯部寛五郎

ルヨリ出ルノ類ハ其事實ヲ洞察シ寛恕ヲ以テ  
病死トシ其節操ヲ遂サスルモ却テ仁恤ナラン  
何ゾ西洋人ノ柔弱ニ擬シテ之ヲ禁ゼンヤ

京僧彦助

士ヲ刑スル切腹ノ科御制止ハ尤可然氣概廉恥  
ヲ知レル士其罪曖昧ニシテ自カラ切腹シテ罪  
ヲ償フハ制止アルモ容易ニ制ス可ラズ

善野 司

大略同論

公議所日誌十六下

七

井上周藏

切腹ハ我國貴士ノ良法廉恥ノ發スル所以ナリ  
決テ禁ズ可ラズ不待命屠腹スル者ハ禁ジテ可  
ナラン併シ行ル可ラズ

佐藤右衛門

切腹ハ武門ノ道ヲ違シ刑不上大夫ノ意ニ適フ  
其不可ナルヲ見ズ命ヲ不奉シテ切腹スル者モ  
或ハ君ヲ諫テ死シ或ハ國難ニ死シ皆至誠惻怛  
ノ情ヨリ出ヅ之ヲ禁ズルモ止マル可ラズ

平山小太郎

大略同論

小江權左門

切腹ノ科ハ武門ノ士農工商ト違ヒ有ル處ニシ  
テ士氣ヲ振起スル所以ナリ不待命者モ其義膽  
氣概却テ稱スベシ西洋各國ニ無キ所ト雖モ  
皇國ノ風氣異ナル所以ニシテ且貴人ヲ敬シ士  
ヲ愛スルノ良法ナラン主人一旦ノ怒リニ死ヲ  
賜フノ如キハ嚴禁タルベシ

大略同論

石原七郎

本多數馬

切腹ノ事各國ニ無クシテ 皇國ニ有之ハ  
皇國ノ 皇國タル所以ナリ命ヲ待タズシテ自  
裁スルモ一端ニ非ズ或ハ君父ヲ諫メ聽レズ死  
ヲ以テ諫ムル者アリ或ハ國ノ爲メニ死シテ國  
難ヲ掃フ等アリ豈曖昧一事ヲ以テ切腹禁止可  
然ト云ハンヤ且己ノ罪アルヲ知ラバ豈他人ニ面

ヲ合スルニ忍ビシヤ故ニ自裁スルハ廉恥ノ廉  
恥タル所以ナリ

大略同論ノ者

長崎鉛七郎 千野良之輔

加藤勇雄

切腹ハ我國固有ノ良法ナリ廢ス可ラズ其他罪  
ノ有無ヲ不辨公命ヲ不待ハ切迫狂亂ノ輩ナリ  
之ヲ禁ズルモ可ナリ不禁モ害アラス

伊達五郎

西洋ノ鈍刀切腹ノ器ニ非ズ切腹ハ勇氣愉快ノ  
所業ニシテ賞譽スベキモアレド多クハ過慮ニ  
出レバ廉恥質直ノ弊ト云テ可ナラシ其餘ノ自  
殺ハ矇昧ノ所業ナリ故ニ國家ニ益ナク其事不  
經ニワタルハ切腹ニ限ラズ都テ自殺ヲ禁ジテ  
可ナリ

中川潜叟

本邦士ヲ刑スルニ切腹ノ科アルハ實ニ良典也  
切腹スルハ我罪ノ死ニアルヲ知テ悔悟自ラ處

スルナリ和魂ノ稱揚スベキ處ナリ禁ベカラズ

岩崎豐大夫

割腹ハ世教ヲ扶持シ氣節ヲ勵マス所以ナリ之  
ヲ去ラバ廉恥衰フマシ然レドモ氣概アル者其  
罪矇昧ナルハ悔悟奮勵セシメ報效ヲ圖ラシム  
ベシ

杉森六郎兵衛

切腹ノ禁行レガタキ而已ナラズ禁ジテ止マズ  
ンバ徒ニ之ニ因テ無辜ノ家族ヲ罪スルニ至ラ

ン且自裁ハ 皇朝義ヲ重ンズルノ美俗ナリ扶  
植スルモ猶足ラザルヲ恐ル何ゾ之ヲ壞ルマケン  
切腹自裁ノ禁令ハ禮義廉耻ノ心ナキ國ニ行フ  
ベシ我 神州維新ノ今日豈制度ノ議スベキ  
ナランヤ

小関與右門

本邦勇武剛直ノ氣未ダ消込セズ切腹シテ死ヲ  
取ル者アリ西洋ニ有無ヲ論ゼズ士大夫以上ニ

若林勘兵衛

用ユル一國人ノ情ニ適フ從前ニ依ツテ行フ  
ニシ其餘論スル所件々禁スルモ益ナシ

村田忠之丞

切腹ハ 皇國ノ萬國ニ超ユル所ナリ之ヲ禁ズ  
ルトモ行レザルベシ先ヅ止ムト不止トハ西洋  
學ノ開クルト開ケザルトニ在リ嚴令アリトモ  
皇國ノ節義ハ俄ニ不可止但シ囹圄中ニテ罪ヲ  
不紕鳩殺スル等ノ弊ハ革正ズベシ

赤岸兵藏

若シコレヲ嚴禁シ到底辯解ヲ以テ直トセバ廉  
耻ヲ以シ死ヲ重ジ義ヲ輕ジ其身ヲ直フシテ以  
テ君父ヲ訴ルニ至ラニ西洋ノ鄙俗ニ倣フミカラズ  
切腹ヲ禁スルハ武士廉耻ノ心ヲ養クニ妨アリ  
姑ク舊ニ因テ可ナリ國是ノ大基礎未ダ立ガルノ  
際枝葉ノ末事ヲ改革スルハ倒置ト云ベシ

新宮左太夫

富松何右門

自ラ切腹シテ其罪ヲ償フハ禁ジテ可ナラン然

レドモ其罪ニ輕重アリ輕キハ過ヲ悔ヒ自艾シ  
テ奮發勉勵セバ國家ニ裨益アラン罪ノ重キニ  
至テハ刑法ヲ甘ンジテ罪ニ服スルハ士道ノ耻  
メキナリ故ニ糾問ヲマタズ割腹シテ罪ヲ償フ  
ハ武門ノ稱揚スル所也西洋各國ニ倣キ輕重ト  
モニ禁止スルノ理アランヤ

秋元慶之丞

命ヲ奉ズルモ命ヲ待タザルモ切腹スルニ隔ア  
ランヤ自ラ切腹スルハ其罪ヲ償フ為ニテ本邦

ノ義ヲ先ニスル所何ゾ西洋各國ニ比セン禁止  
スベカラス

岡田又吉太郎

切腹ハ皇國廉耻ノ士風ナリ此令ヲ立ンニハ  
禮義廉耻ノ風ヲ破リ外夷ノ風ヲ甘シ國人皆胡  
服スルニ至ラザレバ行レガタシ切腹ヲ禁ゼン  
ヨリハ寧ロ新ニ刑典ヲ正シ教道ヲ盛ニシ天下  
ノ士人ヲシテ大義ヲシラシメニハシカズ如  
此ナレバ一朝ノ事ニ其身ヲ殺ス弊ハナカルベシ

長坂鐵之助

切腹ノ科アルヲ是士ヲ貴ンデ廉耻ヲ知ラシム  
ルノ法ナリ命ヲ待タズシテ切腹スル者或ハ君  
父ノ命ニ代ル等アリ誠ニ可貴ナラズヤ願クハ  
從來ノ法ニ立ヲカレ益士氣ヲ養ヒ自ニ屠腹セ  
シノザルノ美政アラニトテ仰望ス

坂田 莠

切腹ハ神州ノ正氣ニ發源シテ大和魂ノ寓ス  
ル處ナレバ決シテ禁スベカラズ益作振ンテ廉

耻ノ心ヲ養ヒ世界第一ノ義舉美談トスベシ依  
テ刑律ニモ士分以上ノ死罪ニハ切腹ノ目ヲ立  
置クベシ

岩本範治

切腹ハ大ニ義氣ヲ鼓舞シテ翻テ育材ノ一端ト  
ナラン禁セザルハ政教自ラ其中ニ在ニカ且之  
ヲ禁ジテ何ノ科ヲ以テ此科ニ代ニ此等ノ事措  
テ不論シテ可ナラン

錦織四郎太夫

本邦士大夫罪アレバ或ハ死ヲ賜ヒ義生ク可ラ  
ザレバ命ヲ待タズシテ切腹ス其仁厚義烈萬國  
ニ絶テ無クシテ僅ニアルモノナリ今其僅ニア  
ルモノヲシテ併セテ禁ゼント欲ス亦謬ラズヤ

同論ノ者

田邊 確 北村経藏 増田鏘太郎

熊谷真藏

日本ノ士ハ禮義廉耻ヲ尊ブ氣節ニメ今切腹ヲ  
禁ズル氏死ヲ極ムルノ時ニ至テ豈何ゾ切腹ノ



禁止ナルヲ用ヒン先ヅ置テ禁ゼザルベシ

同論ノ者

岡田勘右門 矢田武右門 塚本九一郎 入江 事

能見權右門 人見秀雄 樋早郎右門 矢吹卯之二

神原專藏

士ヲ刑スルニ切腹ノ法アルハ刑名ノ正ニ非ズ  
議者ノ説尤得タリトス命ヲ待タズシテ切腹云  
々ハ切腹ノミニテハ盡サバハ似タリ概シテ  
自殺ヲ指スナラン又其人果シテ無罪云々ハ殊

ニ謂レナシ士ノ此舉ニ及フ者ハ所謂氣概アリ  
テ廉耻ヲ知レル者ナリ如此ノ士ハ豫メ法禁ノ  
制止スベキ所ニ非ズ其人罪アリ自悔殞命ニ至  
ルハ可憐ト雖モ其性質ヲ推スキハ法ノ有無ニ  
拘ラズ亦是國家基本立チ風俗一定スル上ハ禁  
ゼズシテ已ムノ理ナラン

帆足龍吉

士モ死刑ヲ犯サバ不殺ヲ得ズ果シテ切腹ノ科  
ヲ廢セバ何ヲ以テ之ニ代ンヤ均シク死ニ處ス

寧此律ヲ存スルニシカズ且士ノ不待命自刃ス  
ルハ自ラ罪死ヲ免レザルヲ知レバナリ自首耻  
ヲ受ルハ激烈ノ徒屑トセザル所アルベシ屠腹  
ト否トハ其人ノ意ニ在リ法令ノ可禁ニ非ズ法  
ヲ設ケテ行レズンバ威權ヲ損シ且士氣ヲ挫カ  
ン獨リ疑似ノ罪ニヨリ不待官裁自刃スル如キ  
ハ禁令ヲ設クルモ可ナリ

糟屋權兵衛

其罪未ダ定ラザルニ切腹スルハ禁スルモ可也

然レ氏一概ニ切腹ヲ禁ズルハ至當ナラズ是レ  
皇國ノ萬國ニ冠絶スル所以ナリ

大畧同論ノ者

恩田啓吾 志賀律三郎 蜂屋新 有馬峻太郎

松崎元右衛門 林慎助 島田元右衛門 大久保金吾

佐藤榮

舊制ノ如ク士タル者若シ死ニ當ルノ罪アラバ  
執縛ヲ加ヘズ市ニ暴サズ家ニ自盡スルヲ聽シ  
賤民ト刑ヲ異ニシテ可ナリ命ヲ待タズシテ切腹

スルハ不經ト雖モ心ニ死ヲ決スルハ事情ニ因  
テ存スルニ忍ビザル所アレバナリ一様ニ論ジ  
ガタシ

大畧同論ノ者

黒石涯 波多野治右衛門 下津權内 笠間英之進

岩田瀨左衛門 稻垣隼人

富田三藏

切腹禁止ノ議至當間然ナシ然レモ此科ノ由テ  
起ル所以亦不得已理アリ 朝廷政道公明ナラ

バ過ヲ見テ仁ヲ知り人情ニ因テ刑ヲ行フノ良  
法立ベシ此科ハ嚴禁可ナリ

白田東

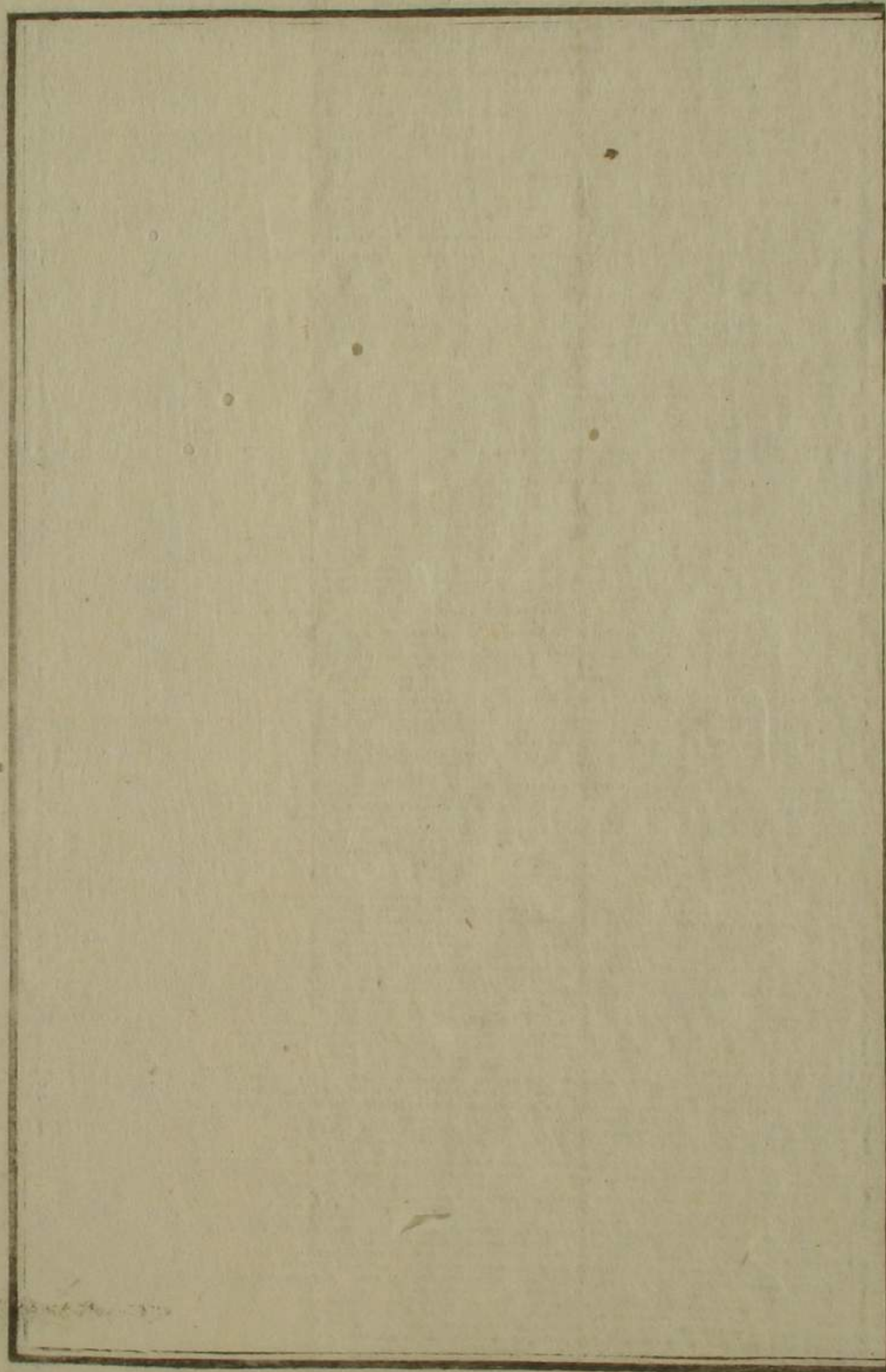
切腹ハ 皇國固有ノ義膽ヲ鼓動スル而已ナラ  
ズ其刑ノ庶人ニ異ナル所以乃チ士ヲ尊ビ廉耻  
ヲ勸ムルノ教モ亦其中ニアリ願クハ其士道ヨ  
リ出来リシ大過ハ割腹ノ刑ニ處シ士道ヲ失ヒ  
シ者ハ斬刑ニ處セン

本日箱訴ヲ開閱ス

明治二年己巳五月

公議所日誌

第十七



十七

公議所日誌第十七

五月廿七日會議二付例刻ヨリ議長大原少將副  
議長心得神田孝平議員二百四人參聽ノ諸侯内  
藤若狭守三宅備後守牧野伊勢守木下大和守稻  
葉美濃守奥平美作守宗少將松平河内守毛利伊  
勢守京極下總守南部環之丞市橋信一郎松平日  
向守本多主膳正青木民部少輔松平出雲守池田  
但馬守山名因幡守加藤能登守平野遠江守板倉

攝津守加藤遠江守小笠原信濃守青山左京大夫  
 櫻井遠江守久留島伊豫守稻垣對馬守米倉丹後  
 守諸藩參聽人例席へ出仕議負第十號第十三號  
 第十四號ノ議案可否ヲ決定シ後ニ第十二號ノ  
 議案評論ヲ讀上ケ且論シ畢テ今日配分ノ議案  
 ヲ請取リ同退散ス  
 第十號切腹禁止ノ議可否決定ノ藩々  
 可トスル者三人  
 安志 三池 常州府中

否トスル者二百人  
 高崎 今尾 戸田大和守 高知新田 宇和島  
 土州 昌平學校 小田原 加納 水戸 鴨方  
 尾崎 黒川 阿州 駿州 勢州龜山 三日月  
 柳河 官津 福本 豐岡 大溝 龍野 重原  
 紀州田邊 久居 三日月 津 西大路 田安  
 笹山 西條 高松 栢原 川越 丹南 矢島  
 三春 福江 黒羽 苗木 丸龜 延岡 芝村  
 中津 笠間 大垣 古河 櫻井 岡田 守山

蓮池	成羽	田原	荻屋	小幡	濱田	峰山	西端	嶋原
狹山	飯山	丸岡	高田	唐津	出石	佐倉	半原	日出
萩野山中	沼田	舉母	三根山	推谷	秋月	人吉	宇土	一橋
結城	小野	新庄	麻生	小倉新田	麻田	飯肥	岩村	高取
高鍋	新發田	下妻	廣島新田	敦賀	秋田新田	中村	長尾	志筑
大田原	泉	高槻	龜田	大田喜	糸魚川	雲州	大洲	淀
	水口	淺尾				杵筑	持木	七日市

伯太	高須	府内	岩槻	飯野	鳥羽	三草	土浦	大聖寺
新見	新宮	田沼玄蕃頭	大垣新田	柳生	伊勢崎	鯖江	越前	多度津
飯田	佐伯	足守	林田	高島	館山	足利	園部	平戸
前橋	牛久	足守	田原本	新谷	山崎	館林	高岡	庭瀬
須坂	宇都宮	花房	吉井	彦根	三上	小城	堀江	福知山
松本	吹上	高富	鶴牧	櫛良	久留米	岡	八戸	壬生
臼杵	森	尾州		柳本		小見川	一宮	

岡崎	長瀨	佐野	下館	松代	廣瀬	上田
高遠	熊本新田	弘前	福山	久留里	小松	
龍岡	今治	小濱	山家	母里	山上	生實
鹿島	三州吉田	作州勝山	豫州吉田	郡上		
完戸	平戸新田	房州勝山	岸和田	津和野		
丹州龜山						
可否相半スル者六人						
紀州	越前勝山	烏山	岡山新田	膳所	綾部	
依テ否ト決シ候事						

第十三號鎮守府將軍ヲ置ヘキ議

豊後岡議貞

中川潜叟

磐城中村議貞

錦織四郎太夫

奥羽ノ俗古ヨリ反覆恒ナシ今鎮守府將軍ヲ置  
キ其及側ヲ安ニス如何

右議案ハ評論ニ及バズ直チニ  
可否ヲ決スル者ナリ

可トスル者百六十三人

高松	完戸	土州	長瀨	大垣	下館	水戸
松本	新宮	三草	田原	山崎	三上	田邊



薦野	半原	壬生	小松	今尾	志筑	福江	生實	福本
小野	安志	結城	弘前	高崎	七日市	蓮池	鹿島	豊岡
唐津	持木	峯山	秋月	紀州・丸龜	膳所	苗木	赤穂	大溝
安中	日出	烏山	新谷	黒羽	佐野	西大路	長島	栢原
八戸	大洲	田邊	狭山	足守	宇都宮	昌平校	大野	鴨方
高須	櫻井	吹上	高鍋	府内	久留米	高取	花房	矢島
敷賀	吉井	伯太	上山				高遠	須坂

雀舞	大垣	勢州	飯山	高槻	長尾	館山	笠間	杵筑
郡上	新田	龜山	鳥羽	舉母	麻生	一橋	岩槻	人吉
駿州	久留米	湯長谷	宮川	新庄	高田	櫛良	中津	既肥
新發田	延岡	吉田	喜連川	下妻	麻田	飯野	山家	中村
大田喜	津和野	大田原	糸魚川	丸岡	濱田	高島	尾州	西尾
伊勢崎	小倉新田	廣島新田	三春	作州	沼田	柳生	芝村	宇土
					龜田	岩村	高富	薩州

公議所日誌十七

五

前橋	鯖江	館林	小城	上浦	園部	高岡
田沼玄蕃頭	戸田大和守	熊本新田	宇和島			
堀江	一宮	多度津	越前勝山	牛久	川越	
小諸	三日市	府中	宮津	淺尾	津	黒川
秋田新田	岡山新田	丹州龜山	田原本	與板		
高知新田	萩ノ山中	豫州吉田				
否トスル者五十二人						
三池	加納	母里	岡田	彦根	佐倉	西端
鶴牧	島原	足利	越前	龍野	山上	加州

大聖寺	三日月	三根山	富山	庭瀬	出石	
小見川	推谷	荻屋	松代	福知山	小田原	
上田	廣瀬	新見	飯田	田安	久居	笹山
林田	雲州	古河	重原	水口	松山	福山
成羽	佐伯	丹南	白杵	小濱	龍岡	今治
房州勝山	久留里	泉	淀	岡崎		
可否相半スル者四人						
阿州	尼崎	柳河	守山	依テ可ト決シ候事		
第十四號新規株式御許相成候様仕度議						無名

公議所日誌十七

下

是迄新商賣工夫仕候者ニ株式御許ト申事無御  
座候間折角元手ヲ費シ善キ工夫ヲ致シ候テモ  
余人直ニ真似仕候間最初工夫仕候者ハ元手ヲ  
モ取戻兼候右故自然新規ノ工夫ヲ不致様ニ成  
行日新ノ御趣意ヲ失ヒ候様立至申候依之此度  
別段改テ御布告有之以來都テ新規商賣申立候  
者ハ其株ヲ御許シニ相成安ニ同業ノ者無之  
様被成下度尤永代株ト申譯ニハ無之十年又ハ  
十五年ト御定其者元手ヲ取戻候上相應ノ利分

ヲ得候様奉願候若シ右年限中ニ同業相始度存  
候者ハ株主ニ示談ヲ遂ゲ候様仕度且又右株式  
御許ニ相成候上ハ相當御運上ヲ株主ヨリ相納  
候様被仰付度奉存候右ノ通ニ相成候得ハ新  
規商賣ヲ相始候者多分ノ儲可有之儀ニ付銘々  
工夫ヲ廻ラシ自然智識モ相進ニ遂ニハ御國繁  
昌ノ基共可相成奉存候  
右可否決定ノ藩々  
可トスル者百六十九人

右議案ハ評論ニ及バズ直チニ可否ヲ  
次スル者ナリ

宮川	丸岡	飯山	富山	新庄	舉母	鳥羽
薩州	生寶	柳河	田原	三上	守山	高島
長尾	半原	鯖江	三草	山崎	今治	廣瀬
壬生	府内	足守	沼田	西端	庭瀬	薦野
志筑	唐津	八戸	高須	新見	淀	宇和島
福知山	糸魚川	伊勢崎	田沼玄蕃頭	飯田		
前橋	古河	吉井	櫻井	伯太	榔良	飯野
尾州	中津	岩槻	笠間	大垣	林田	一橋
館林	福本	小城	土浦	越前	堀江	加州

一宮	大聖寺	多度津	喜連川	長瀨	膳所
完戸	郡上	延岡	土州	久留米	岡山新田
成羽	水戸	佐野	下館	鶴舞	高取
牛久	佐伯	丹南	川越	九龜	黒羽
狹山	山家	柳本	上山	結城	峯山
田原本	宇都宮	七日市	三日市	三州吉田	鳥山
作州勝山	熊本新田	戸田大和守	紀州田邊		
岸和田	湯長谷	津和野	宇土	西尾	佐倉
中村	飯肥	雲州	人吉	杵筑	麻生
					松山

公議所日誌十七

鴨方	久居	吹上	鹿島	尼崎	與板	小倉新田	大溝	泉
昌平學校	生實	荻野山中	丹州田邊	黑川	安中	敦賀	豐岡	花房
持木	苗木	常州府中	高知新田	蓮池	今尾	出石	勢州龜山	秋月
嶋原	西大路	平戸新田	豫州吉田	福江	紀州	濱田	高田	麻田
日出	津	小諸	館山	三池	高崎	駿州	三根山	秋田新田
	小田原			長島	彦根	龜田	椎谷	新發田
				赤穂	宮津			

否トスル者五十八

高鍋	新宮	龍岡	岡田	高富	田安	高松	弘前
丹州龜山	松本	龍野	母里	芝村	加納	山上	福山
大田喜	白杵	苅屋	小野	鶴牧	淺尾	栢原	重原
岡	小濱	大洲	足利	三日月	大野	矢島	久留里
小松	房州勝山	安志	園部	上田	岡崎	松代	大垣新田
	小見川	岩村	高岡	廣島新田	高槻	須坂	水口
		柳生	越州勝山		下妻	笹山	

可否相半スル者二人

阿州 大田原

依テ可ト決シ候事

第十二號議案

第一

官吏兵隊之外帶刀ヲ廢スルハ随意タルベキ事

第二

官吏ト雖モ脇指ヲ廢スルハ随意タルベキ事

制度寮撰修

森金之丞

謹而案スルニ人ノ刀劍ヲ帶スルハ外ハ以テ人  
ヲ防ギ内ハ以テ己レノ身ヲ護スル所ニテ天下  
動亂ノ際ハ又要スベキアリ然レドモ世運漸ニ  
文明ニ赴キ人々自ラ道義ノ尊キヲ知ルニ至テ  
ハ粗暴殺伐ノ惡習自ラ相息ミ此等ノ物モ畢竟  
虚飾ニ供スルニ過ギザルノミ方今國家鎮定  
皇運日隆興良法以テ内ヲ正シ兵制以テ外ヲ守  
ル此際ニ當テ人各禮節ヲ砥礪シ所謂粗暴殺伐

ノ惡習變シテ道義自守ノ良俗ト化スベキ也故  
ニ自今以後官吏兵隊ヲ除クノ外帶刀相廢シ候  
儀随意タルベシ尤官吏ト雖モ脇差相廢シ候儀  
随意タルベシ是何ゾ偏ニ文事ヲ重クシ武事ヲ  
輕クスルニ非ズ固ヨリ文武同體唯其名ヲ異ニ  
スル者ニシテ政治ノ頼テ舉ル所人各篤ク意ヲ  
注ギ兩ラ之ヲ盛興スベキナリ今此ニ陳スル所  
ノ二題目ハ唯其弊習ヲ一新シテ聊 皇政隆興  
ノ際ニ裨補アラシム事ヲ思而已伏テ諸賢ノ高評

ヲ待ツ謹議

右評論抄出

雨森謙三郎

兩刀ヲ帶ルハ 皇國尚武ノ性自然ニ發露スル處  
ニシテ素ヨリ嘉尚スベキ所ナリ今之ヲ廢セン  
トナラバ却テ士氣ヲ沮ムノ一端トナルベシ夫  
利不百不易其法今帶刀ヲ廢シテ其利幾何カア  
ル假令随意ニセヨト令ストモ苟モ大和魂ヲ有  
スル者誰カ刀ヲ脱スル者アルベキヤ此等ノ議

維新ノ時ニ於テ大ニ取ラザル所ナリ

大略同論ノ者

併和錦藏	堀江覺右門	西村捨藏	稻津 濟
新宮左太夫	望月歸一郎	坂口音度	中川潜叟
波多野治右門	錦織四郎次夫	大田原高	宇田節之助
鈴木權作	佐藤 榮	糟屋權兵衛	児玉 精
蜂屋 新	青宅郎左門	菅 敦	熊谷貞藏
毛受鉀三郎	恩田啓吾	岡田又吉太郎	帆足龍吉
岡音五郎	望月太兵衛	村田忠之丞	小柴 續

加藤鍊之助	中金稱平	磯部寛五郎	平山小太郎
國府寺源兵衛	川西六三	清水右衛門	近藤幸止
杉浦 誠	長坂鐵之助	高木東一	原株之助
福井大助	中里行藏	澤邊弘三郎	小高半三
高柳安左門	太田省吾	井上周藏	佐々木鍊右門
平井東馬	生田四郎兵衛	臼田 東	善野 司
鎌田平十郎	梶又左衛門	加藤右門	本多數馬
輕部鷓彌	大久保金吾	岡本太郎	水野立三郎
瀧澤省吾	高橋和多留	増田鏘太郎	岡田 孝



稻垣隼人	小泉重兵衛	小林儀左門	藤田克之助
富松何右門	立花次郎左門	河口市之進	那須金右門
荒井欽吾	戸塚左近衛門	生田平格	櫻庭太次馬
岩田瀨左門	岡野小平治	武田平之助	笠間英之進
三橋肇	久松修理	加集寛介	黒石涯
藏田寛之助	三輪清助	加藤勇雄	岡本直記
田中哲輔	永野壽郎衛	京僧彦助	松浦鶴治
江良平太左衛門	大津武五郎	富永主馬	飯田逸之助
二階堂貢	澤渡雙吉	赤見為右門	石原正三郎

関小四郎	渡邊清右門	北村經藏	矢田武右門
長崎鉦七郎	野村倫右門	有竹裕	小原兵部
早川與一郎	宮田深藏	人見秀雄	仁木數馬
菜川官三	持永治兵衛	樋早郎右門	内田仲之助
増田貢	鶴居彦左門	服部清三郎	平山志右門
茂原肇	田邊九郎左門	山本四郎	加藤修造
下津權内	關左門	神吉重三	松下直衛
今井金平	安島解三	奥村權之助	戸田保
柏木兵衛	杉森節兵衛	白石奎右門	小関與右門

公議所日誌 十七

三

伴權太夫	赤岸兵藏	山崎	傳	田丸謙藏
友松勘之丞	岡本治兵衛	吉田權藏	岩崎豐太夫	
桑原政左門	海野三雄	佐藤八左門	高木大之進	
榑原專藏	峯岸正愿	岡田勘右門	津川奇雲	
和田理兵衛	田代	環	小久江權左門	千野良之輔
鈴木才藏	成田作左門	三田稱平	小華和太郎	

若林勘兵衛

聖上ヨリ士卒ニ通シ帶カスベシ兵隊銃ヲ負フ者小刀ヲ脱スルハ臨時便ヲ取ル妨ゲナシ

岩本範治

帶刀ハ不可廢只輕卒及ヒ處士一刀ヲ佩ビ小者町人ハ一刀ヲ佩ルモ禁シテ可ナリ

大久保金吾

我邦古制天下無事ノ日ハ兵仗ヲ兵庫ニ藏メ私携ヲ許サズト聞ケリ今ヤ萬機復古ノ時ナレバ議案ノ意モ據トコロアルニ似タリ然レドモ古今勢ヲ異ニス今日此令一タビ下ラバ士氣衰耗セン此議用ユ可ラズ

神州ノ正氣此器ニ存ス苟モ武士ノ  
稱號アラシク限リハ不可廢御一新ノ  
際官武ノ別ナキ上ハ縉紳家モ平日双刀  
ヲ帶セシムベシ

中野重明

大略同論ノ者

松崎元右衛門 有馬峻太郎

園田 保

居治不忘乱謂之武之善經况居乱忘乱其謂之何

方今ノ時ハ抑如何ナル時勢ゾヤ且士大夫ノ帶  
刀ハ以戈止戈拔カヌ太刀ノ功名ニテ武中ニ文  
ヲ寓スル自然ノ妙理ナレバ尚此上ニモ増シ帶  
ビシトテ况ヤ敢廢センヤ教化苟モ行届カバ何  
ゾ粗暴ノ徒アルヲ患シ苟モ行届カズハ身寸鐵  
ヲ不佩モ豈暴舉ノ者ナカラシヤ

毛受將監

風俗ヲ變ズルハ不容易トニテ此兩條ノ如キ其  
得少シテ其害多シ變更ス可ラズ

第一

士分以上ハ必カヲ帶バドモ農工商共ニ必シモ  
一カヲ禁ゼズ又必シモ之ヲ強テ帶バシメザル  
ハ即チ本文ノ随意ナリ自ラ國體適宜萬世不可  
改ノ制也本文官吏兵隊ノ外ト云ハ士以上中ニ  
テ特ニ文武ノ學生等ニ限ルニ似タリ文武學生  
ハ即官吏兵隊ノ修業ヲスル者ナリ奚ゾ随意廢  
カセシム可シヤ

坂田 芳

第二

脇指ハ從前堂上以上式正ニ武士ノ如クアラハ  
ニ挾マレズト雖モ其製其用古來顯然決シテ廢  
シ難シ若シ廢スルキハ必之ニ換ルニピストル  
ノ類ヲ用ヒン不改ノ勝ルニ如カズ但シ卑者尊  
者ノ前ニ出ルキ脱劍ノ制限ハ位階ニ應ジ嚴ニ  
立タシ

笹尾五郎八

大畧同論

依田右衛門二郎

此議 皇國ノ人情ニ背キ其不可ナル論ヲマタ  
ズ別ニ議案ニ因アル規則ヲ著ス

一 文武一途ノ制立シ上ハモト文官タリシ者モ  
雙刀ヲ帶セシムベシ

一 君前ニ伺候スル近習ノ臣ハ必ス刀ヲ帶スベシ

森 修

随意帶刀ヲ廢セハ士商ヲ辨識シ難シ夫禽獸モ  
身ヲ護ルノ爪牙アリ況ヤ人ニ於テ護身刀ヲ廢

ス可ンヤ古代ノ風ハ一刀ヲ佩ヒ太刀ハ僕從ニ  
持セシト云ヘリ今長短ノ二刀ヲ帶スルハ後世  
戰國ノ遺風ト聞ク古風ニ歸サンモ又可ナランカ

中澤見作

佩刀ハ身ニ著スルノ要具之ヲ廢セハ 皇國ノ  
俗ヲ敗リ文弱ノ風トナラン且俄ニ從來ノ風俗  
ヲ變セバ外國人モ其輕躁ヲ笑ハン故ニ古風ノ  
如ク一刀ヲ帶スルニ改メバ可ナラン然レドモ  
止ヲ得ズシテ廢スルハ格別ナレドモ第一條ノ

文意ニテハ止ヲ得ザルノ勢ニモ非ザルニ似タ  
リ然則是好事ノ議ニテ妥當ナラス

秋元與助

右謹テ古徵ヲ原ヌルニ兵備ノ大小ヲ脱スル  
ハ尤可然コトナリ舊來佩刀ノ式ヲ受來ル者ハ  
一ロヲハ常ニ佩ヘシ飾ルニ異好ヲ禁シ古來ヨ  
リノ形ヲ用ヒ外國製ニ紛ハシキ一無ルベシ劍ハ  
護身ノ要用ナレバ一刀ハ必佩ベシ。

入江事

天ノ物ヲ賦スル必ス與ルニ患ヲ防グノ具ヲ以  
テス牛角虎牙ノ如キ是也人ニ至テハ此具ナシ  
故ニ知ヲ授ケテ刀具ヲ製セシメ防禦ノ具トナ  
ス焉ゾ之ヲ廢センヤ

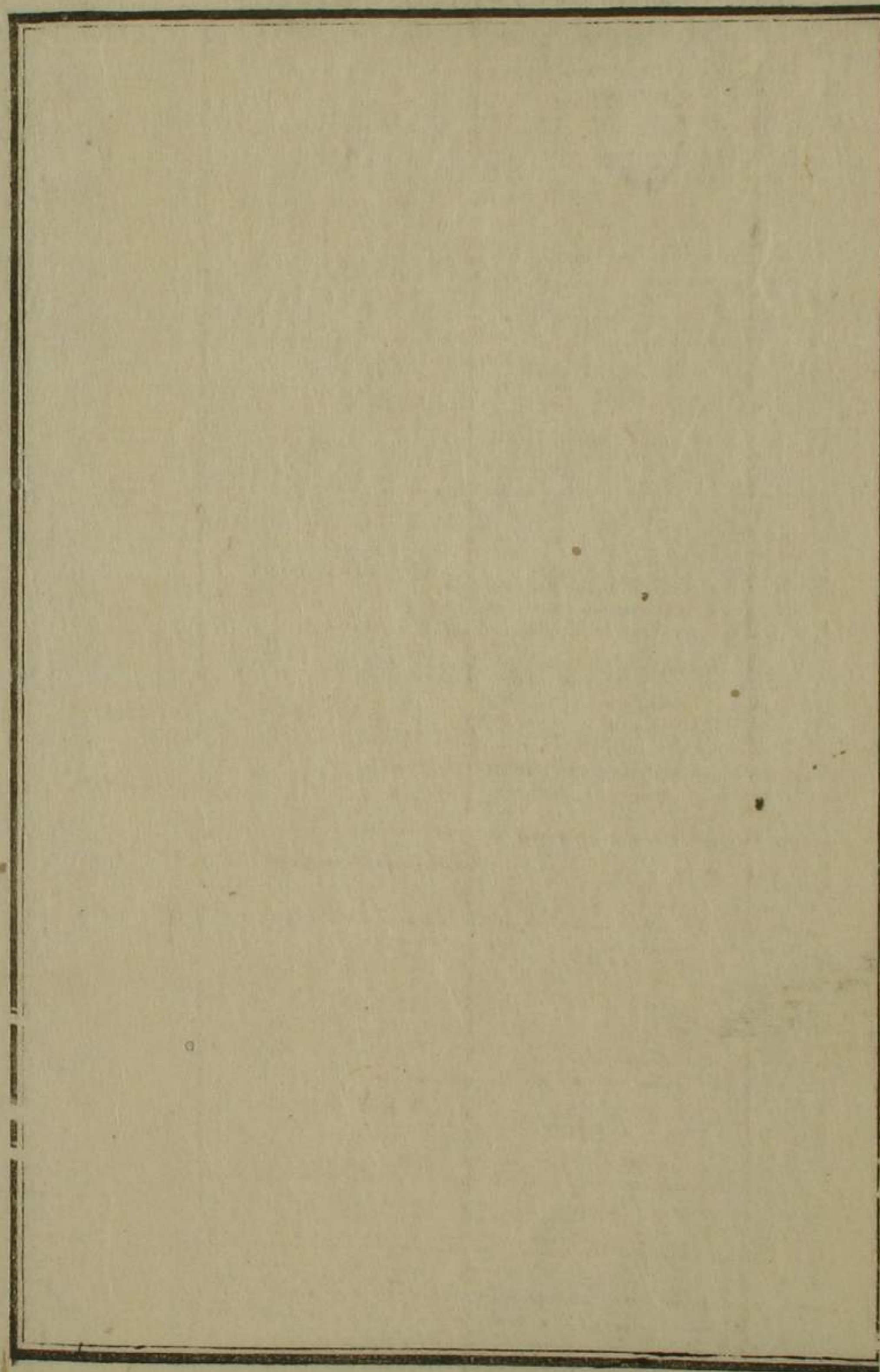
三宅鑛太郎

帶刀ヲ廢スルノ說卓見トモ云ベシ然レトモ唯  
ニ此條ヲ以テ皇道ヲ裨補スルトナラハ抑末  
ナラン皇運隆興苟モ暴戾ノ事ナキニ至ラバ  
何ゾ腰刀ノ有無ヲ論セン

明治二年己巳六月

公議所日誌

第十八上



公議所日誌第十八上

六月二日會議ニ付例列ヨリ上院議長大原中納言議長大原少將副議長心得神田孝平議貞二百十三人參聽ノ諸侯田安中納言久留島伊豫守内藤備後守池田但馬守青木民部少輔板倉攝津守三浦玄蕃頭瀧脇丹後守織田大和守其外諸藩參聽人例席へ出仕議貞例列ヨリ第十二號并第十六號議案可否ヲ決定シ後第十五號議案評論ヲ



讀上ケ了テ今日配分ノ議案ヲ請取り一同退散ス

第十二號官吏兵隊外帶カテ廢スルハ随意タルノ議

右省否ノ事

第十六號大名領分飛地無之様仕度議

上総國武射郡 真行寺和泉

諸大名領分其身上ニ寄或ハ一國一圓或ハ一郡一圓或ハ一郷一圓下シ賜候様仕度奉存候旧幕府徳川源家康公ヨリ三四代ノ間ハ一國一郡一郷等ヲ一圓ニ宛行申候處近來此所ニ一村彼所

ニ二村所々飛地ニ宛行候ニ就テハ自然領分ノ取締モ不行届地方掛リ役人往来ノ費種々ノ弊害ヲ生シ申候且又各藩寛仁苛酷不同ニ御座候得ハ廉直人撰諸國ニ監察使ヲ以可否曲直御糺明賞罰嚴重ノ御沙汰被 仰出候様奉存候  
右可否決定ノ藩々  
右議案ハ評論ニ及バズ直ニ可否ヲ決スル者ナリ  
可トスル者百九十一人

三草 伊勢崎 宮川 麻田 西大路 小見川  
岡田 喜連川 薦野 高遠 津和野 宇和島

苗木	長島	檜良	土浦	一宮	館林	荻山	新谷	廣瀨
阿州	飫肥	麻生	私前	新發田	糸魚川	多度津	湯長谷	大田原
岩村	小泉	中津	駿州	下妻	堀江	三上	龍岡	上田
福江	栢原	淺尾	柳河	園部	小城	山崎	鯖江	大野
生實	館山	庄内	福本	小田原	岸和田	大聖寺	久留里	久留米
人吉	花房	久居	水口	大田喜	宇都宮	三日市	三根山	西大平
出石	矢島	小諸	笠間					

田原	佐野	西端	三池	常州府中	越前勝山	備後福山	豫州吉田	平戸新田
龜田	杵筑	郡上	鹿嶋	三州吉田	作州勝山	熊本新田	羽後松山	岡山新田
白杵	持木	彦根	小松	高知新田	昌平學校	丹後田邊	勢州龜山	廣嶋新田
丸龜	安志	伯太	綾部	膳所	志筑	烏山	峰山	吹上
松代	安中	宇土	日出	高崎	田安	舉母	中村	上山
高鍋	芝村	鶴舞	大洲					
平戸	與板	米澤	飯山					

公議所日誌十八上

三

三田	尾州	鶴牧	黒羽	高富	推谷	秋月
飯野	吉井	高島	古河	新宮	飯田	西尾
延岡	佐倉	唐津	松本	完戸	長尾	水戸
柳本	新見	前橋	島原	藝州	母里	山上
加納	佐伯	足守	成羽	丸岡	守山	笹山
蓮池	高田	小濱	山家	高取	尼崎	越前
濱田	肥後	林田	薩州	柳生	須坂	一橋
小野	紀州	丹南	高松	龍野	鴨方	狭山
丹州	龜山	小倉	新田	豫州	松山	椿岱
						岡

淀	土州	戸田	大和守	森	泉	田沼玄蕃頭
佐土原						
雲州	富山	川越	結城	高槻	荻屋	下館
半原	三春	黒川	大垣	足利	敦賀	今治
八戸	新庄	庭瀬	壬生	福知山	大垣	新田
七日市	津	三日月	紀州	田邊		
可否半スル者十三人						
岡崎	大溝	長瀬	村岡	鳥羽	柴山	牛久

公議所日誌十八上

日

櫻井 岩槻 宮津 沼田 豊岡 田原本  
依テ可ト決シ候事

第十五號赦令御廢止可然議

制度寮准撰脩 神田孝平

竊ニ案ズルニ 朝廷ニ吉凶ノ大禮アル毎ニ赦  
令ヲ行ヒ罪人ヲ放ツトハ和漢古今ノ常典ナリ  
然レモ其理ハ頗ル不經ニ属スル者アリ夫レ人  
君ノ人ヲ刑スルハ好テ之ヲ爲スニ非ズ寧ロ一  
人ヲ罰シテ數人ヲ救ハントノ趣意ナレバ其形

ハ不仁ニ似タレモ其實ハ至仁ヲ行フナリ之ニ  
及シテ赦令ヲ行フハ一人ヲ赦サンカ為ニ寧  
ロ數人ヲ陷レントノ趣意ニ當リテ其形ハ至仁  
ニ似タレモ其實ハ不仁ノ甚シキナリ且夫罪輕  
クシテ赦スベキ者ナレバ 朝廷ニ大禮ナシト  
雖モ之ヲ赦スバシ又罪重クシテ赦スバカラガ  
ル者ナレバ 朝廷ニ大禮アリト雖モ赦スベカ  
ラズ赦スモ赦サハルモ 朝廷ノ大禮ニ關係ス  
ヘキトニ非ズ况ヤ刑律ハ永世ノ法ナリ赦令ハ

一時ノ事ナリ一時ノ事ヲ以テ永世ノ法ヲ破ル  
可ナランヤ此數ノ者皆義ニ戻リ理ニ反ス故ニ  
云頗ル不經ニ屬スル者アリト方今文明日進ノ  
際此等ノ事モ亦御改正アルベキニ似タリ如何  
右評論抄出

関小四郎

吉凶ノ大禮アル毎ニ赦令ヲ行フハ廢止スベシ  
然レドモ古スノ語ニ赦ハ權時ノ宜トアレバ非  
常ノ赦ハ亦無カルベカラズ

大略同論ノ者

服部清三郎

石井正敏

磯部寛五郎

中里行藏

此議可ナリト雖モ其行ハル、ヤ久シ未ダ政ニ  
害アルヲ聞カズ尤罪ノ次第ニ依必ズ赦スベカ  
ラザルモノハ此例ニアラズ何ハ琴柱ニ膠スベ  
キヤ萬機時宜ニ随テ之ヲ施テ可ナラン但シ常  
典ノ赦令ハ廢スベシ

田中哲輔

赦令ハ不經ノ如シト雖モ古今得失一ナラズ悉  
ク不經ヲ以テ概シ難シ舊幕府赦令ノ制ノ如重  
辟死囚ハ之ヲ算セズ其赦ス所輕囚ニ過ギズ且  
追放流罪ノ徒ハ豫メ大禮ノ有無ヲ算シテ其年  
期ヲ程課シ漸次赦名ヲ以テ之ヲ放還ス其名ハ  
非ナリト雖モ其實ハ非ニアラズ 聖朝ノ刑典  
ニ於ル幕府ノ舊貫ニ據ラントナラバ赦令ヲ廢  
スルノ令下シガタシ或ハ其名ノ非ナルヲ惡ン  
デ之ヲ廢セントナラバ新ニ刑政ヲ改正シ成典

ヲ確立スルノ後ニアラザレバ不可也

太田省吾

刑嚴ナラザレバ民畏レズ赦令常典トナスハ大  
ニ不可ナリ然レモ天下冤罪ナシト云ベカラズ  
故ニ非常ニ之ヲ施スモ亦仁道ナランカ

福井大助

大略同論

恒岡完次郎

人君ノ國家ヲ治ル徳ヲ以テ本トス然レドモ徳

教厚カラザルヨリ一時赦ス可ラザルノ罪アリ  
テ不得已刑ヲ用ルニ至ル故ニ吉凶ノ大禮ニハ  
其哀樂ノ情ヲ擴充シ衆庶ト休戚ヲ俱ニセント  
シテ赦令ヲ行フナリ之レ已ムヲ得ザルヨリ刑  
ヲ用ユルノ情ヲ以テ大禮ノ事實ニ依テ行フ所  
ナレバ其罪ノ輕重ニヨリ其節用ヲ失ハザレバ  
此令廢セズシテ可ナランカ

大略同論

横手五左門

白石左衛門

吉凶ノ大禮有ニ付大赦ヲ行ヒ罪ノ至當ヲ論ゼ  
ザルハ仁ニ似タリト雖モ却テ姑息ノ仁ニ近シ  
制シテ可ナラン

大略同論ノ者

- 松崎元左門
- 木下三平
- 岡本治兵衛
- 岡田 孝
- 桑原政左門

帆足龍吉

赦令ヲ論ジテ不經トス固ニ當レリ斷然廢止シ  
別ニ賜酺免役等ノ惠典ヲ行フベシ罪人ト雖モ

此日ニ於テ酒肉ヲ賜ヒ幽囚ノ鬱ヲ散ゼンメバ  
以テ惠恩ニ浴セシムルニ足ラン

秋元與助

刑法已ニ決スルハ常刑不赦ノ典ニ從ヒ親戚族  
人ヨリ幽閉放流等ノ者ノ為メニ哀ヲ乞ニ於テ  
ハ大赦ノ例ニ從ヒテバ惠刑并ビ行ハレ及正ノ  
御一新タルベキカ

下津權内

刑ノ重キハ輕キニツクト云ヘリ依之矢張

朝廷ニ吉凶ノ大禮アル毎ニ赦令ヲ行フ古今ノ  
常典可然奉存候

佐藤八右衛門

同論

池田勳一郎

右至當辯論ヲ待ズト雖ヒ兵革ノ餘濫刑ニヨリ  
不教ノ民法禁ヲ犯シ或ハ冤枉ニ陷ルヲ恐レ吉  
凶ニ托シ赦令ヲ行ヒ民ノ悔悟ヲ望ム仁者生物  
ノ意止ヲ得ガル所ナリ本朝律令六議ノ法并ヒ



行レ其當ヲ得テ此廢議始テ發スベキニ似タリ

早川與一郎

大畧同論

志賀律三郎

赦令ハ末俗ノ弊聖人ノ世コレアルヲ不聞辜  
ヲ犯ス者ハ幸ニ大禮ニ逢トモ此ニ赦サレ彼ニ  
犯ス者往々不少豈赦ヲ以テ戲トスルニチカ、  
ラズヤ故ニ赦令廢止ヲ至當トス

熊谷貞藏

吉凶大禮アルキ赦令ヲ行フヲ常典トナストキ  
ハ博徒杯預メ頼シテ惡ヲ為ス者アリ亦情状ニ  
依テ行フヘキアリ故ニ廢シ置テ時ニ臨ニ適宜  
ニ行フヘシ

坂口音度

刑ハ情實ニ隨テ輕重スベシ必ス律ニ拘泥スベ  
カラズ然トモ律モ亦破ルベカラス情實ニ隨テ  
輕重ヲナス者ハ即チ律ヲ活用スル者ニテ一時  
ノ宜ニ叶フ是ヲ法外ノ法ト謂フベシ蓋赦モ亦

時宜ニ叶フノ義ニ出ツ後世ノ流弊ハ改ムヘシ  
赦ノ令ハ廢スベカラズ

坂田 莠

暴亂ノ餘ヲ受タルトキハ大赦モ一時民心ヲ安  
ンズル一ツノ權宜ナレトモ向後政令一途ノ御代  
ナレバ斷然行ハズシテ足りナン然トモ本文所  
謂永世ノ法トナル程ノ刑律未確定故ニ罪ノ輕  
重其當否如何ヲ知ラス請フ此議ノ如キモ取加  
ヘ速ニ一定ノ刑律ヲ編集アリテ幸ニ罪ヲ免ル

者ト不幸ニシテ冤罪ニ陥ル者トナカラシメン  
但シ大慶事アリ常人以上賚賜等行ル時ハ  
右ニ准ジ罪モ一等カ二等ハ宥ムル條目ハ  
旧法アルニ似タリ更ニ考ヘテ定例立タキ  
事

園田 保

此議允當ナリ但刑罰ノ後ログラキハ古今ノ通  
弊ナレバ寧ロ輕キニ失スモ重ニ失スル勿レ以  
來青災ハ大ナリトモ赦スベシ怙終ハ小ナリト

モ不可赦ノ令ヲ設ケ務メテ以法揣情酌情行法  
如此セバ天下冤民ナカラシ

毛受 洪

赦ハ小人ノ幸ニシテ君子ノ不幸ナレバ兵亂又  
飢饉ノ後等ニテ一々法禁ノ届キガタキ時止  
テ不得シテ之ヲ行フハ格別其餘議案ノ如ク廢  
止可然カ

岡田又吉太郎

大畧同論

永野壽郎兵衛

赦令ハ一時愷惻ノ事ニシテ常トナスベカラス  
故ニ罪ノ輕重ヲ洞察シ赦ト不赦トハ必ス常典  
ニ拘ラザルヲ議案ノ如ク然ルニシ

新宮左太夫

赦令ヲ常典ト為ス固ヨリ不可一切赦令ヲ廢ス  
ルモ不可之ヲ要スルニ上ノ人時宜ヲ計リ人情  
ヲ察シ非常ノ明斷ヲ以テ一時ノ仁道ヲ行フベ  
シ

京僧彦助

赦ハ小惠ニシテ至大ノ仁恤ニアラズ御改正可  
然願クハ文明ノ化ヲ被ル際重罪ノ外死刑ヲ省  
キ蝦夷地ノ開拓礦山其外荒蕪ノ地ニ充シメ教  
化ヲ施シ悔悟セシムベキ御處置コレ有度候

渡邊清右門

赦ヲ行ラハ非ナリ佛教ニ近シ赦スベキ罪ハ大  
禮ニ不拘赦スベシ

赤見為左門

至當ナリ然レトモ其罪ノ赦スベキハ其情實ニ

原キ或ハ其罪ノ一等ヲ宥メ時トシテハ赦宥ヲ  
行ハ可ナリ

平井東馬

赦令ハ往古ヨリノ典禮ナレバ不得已ノ障礙  
ナケレハ廢止セザルモ害ナカルベシ然レ氏固  
ヨリ小惠ニ拘ツテ大仁ニ戻ルノ理廢止スルモ  
亦可ナリ

加藤鍊之助

大禮ニヨリテ罪ヲ赦サンヨリ寧ロ平世淹滯ナ

ク且寛罪ナカラシムルヲ祈ル

伴權大夫

此議然ル可ラズ且凶禮ヲ以テ赦ヲ行フ臣未  
知之抑

天皇即位 皇子降誕等ノ大禮ハ實ニ天下維新  
ノ慶儀一夫モ其處ヲ得ガルニ忍ヒス罪人ヲ放  
テ天下ト共ニ更始ス人主ノ至情可有ノ理ニシ  
テ不經ト云ベカラズ且情實可原シテ法律不可  
借者アリ此等ハ一旦赦ニ遇ハ皆化シテ良民ト

ナル者ナリ其他逆罪即罰ノ者ハ大禮アリト雖  
モ赦令ノ例ニ非レバ必シモ今之ヲ廢シ自新ノ  
道ヲ斷ツニ不及儀ト奉存候

堀内謹衛門

治世以大德不以小惠三宥三赦ハ古聖王ノ常典  
ナリコレヲ外ニシテ大青ヲ赦サズメ可ナリ魯國  
肆大青春秋非之可不慎哉

此外猶評論アリ次卷ニ出ス

官版御用

御彫刻所

神田旅籠町丁月

竹口瀧三郎

本町四丁目

御書物所

上州屋惣七

明治二年己巳六月

公議所日誌

第十八下

公議所日誌第十八下

第十五號議案撮略

赦令御廢止可然之議

右評論抄出

神田孝平

近藤幸止

大赦スルハ甚ダ謂レナシ廢典可然去ナガラ三  
宥三赦ト云如キ罪輕ク如何ニモ憐レミ赦スベ  
キ者ハ赦令ノ有無ニ不拘赦ス可當然ナリ



大略同論ノ者

吉田權藏 那須金右門

岡田勘左門

赦令ノ如キ佛說ニ似タルハ廢止シテ可ナラン  
法ハ重ク罪ノ疑シキハ輕ク必寬罪無ラシメバ  
庶民益法ヲ守ルベシ

雨森謙三郎

古所謂赦ハ一人ノ上ニテ罪ノ疑フベク憫ムベ  
キモノヲ宥免スルコトニテ罪ノ輕重ヲ問ハズ一

同ニ赦スコトニハアラズ大亂ノ後逐一法禁モ行  
ハレ難キ時ニハ一同ニ赦スコトモアルベシ治世  
ニテ一切ニ赦セバ良善ノ害トナリ又豫メ赦ニ  
遇フヲ料リテ惡ヲ為ス者モアルマシ一同ノ赦  
ハ必ず廢スベシ

藤田克之助

先王ノ典ヲ以テ不經ニ屬スル不仁ノ甚シキト  
為シ之ヲ廢セバ不可ナラン數ク赦サズンテ姑  
ク其典ヲ存スルモ可ナラン

小泉重兵衛

赦ハ權時之宜非常典也ト承ル斷然御廢止トモ  
ナルマジ尤非常ノ典ニ付舊例先格也トテ行ハ  
セラレ候儀御廢止アリテ政府限リ赦令ハナキ  
トニ定メ置レ可然

增田鏘太郎

朝廷吉凶大禮ノ節赦令ヲ行フハ御仁恤ノ義ニ  
テ至當ナレ氏此典令ハ非常ノ義ナレバ刑律ニ  
アラカジメ掲ゲ上グベカラズ

森安七右門

非常大赦ノ令ハ廢止シ追々教化ヲ施シ無刑ヲ  
期スベキ事

立花次郎齋門

此議至當ナリ只愚民ノ誤テ不仁ニ似タリトセ  
ンヲ恐ル願クハ一般ニ此理ヲ自得セシメントテ  
戸塚左近門

赦令ハ小人ノ幸而君子ノ狼莠乎且國家大喪ア  
ル毎ニ此令ヲ設ケバ圜圜ノ囚縲君上ノ不諱ヲ

悦ビ待タザルヲ不得不祥ノ大者ナリヨロシク  
改ムベシ

大略同論ノ者

武田平之助 岡音五郎

善野 司

赦令廢止シテ可ナリ之ニ換ルニ賑窮恤老ノ典  
ヲ舉ゲ且御凶禮ノ時音曲長ク停止ノ令ヲ弛メ  
タシ

四王天兵亮

平生ノ政斷然殺スベキハ殺シ放ツベキハ放チ  
終ニ獄ニ罪人アルヲナクハ將タ何者ヲ放テ以  
テ大禮ノ常典トナスベキヤ然レハ大禮ニ在テ  
赦令ヲ行フハ常典ニシテ常典ニ非ルニ似タリ  
果シテ能ク獄ヲ斷スルニ至テハ赦令御廢止ト  
コレナクハ可ナラン乎

近藤門造

吉凶ノ大禮アレバ赦令ヲ行フ不經ニ屬スル者  
ト雖モ全ク罪者ヲ救フノ趣意ニ非ズ吉凶ノ上

ニ於テ人情ニ基キ其禮ニ報ル所以ナリ之ヲ廢  
止スルハ其實仁ニ戾リ理ニ拘スル儀ト奉存候  
道理上ヨリ視レバ廢止スバシ情恕中ヨリ察ス  
レバ存用スマシ今其中ヲ取テ情實ヲ審ニシ大  
赦ヲ下ス時ニ當リ釋シテ良俗ヲ傷ラズ政憲ニ  
妨ゲナキノ輕罪ノミヲ赦シ吉凶大禮ノ恩典ヲ  
存セバ又仁恤ノ一端ナラン

增田 貢

并和錦藏

尤可ナリ然レバ平常ニ限ルベシ臨時非常ニ至  
テハ赦令モ廢シ難キコトアラシク情ニ因テ政ヲ為  
シ機ヲ見テ權ヲ制スノワケニテ一ヲ取テ論シ  
ガタシ

同論ノ者

加藤小左門 麻見達左門

藏田寬之助

國中御多端ノ秋ニ候ハハ彌賞罰明瞭ニ相成候  
上ニテ斷然御改正然ルベク奉存候

栗山誠一郎  
生殺ハ之ヲ刑典ニ照シテ處スベシ何ゾ 朝廷吉  
凶ノ大禮ヲ問シモシ罪ノ輕重ニヨリ雇作シテ  
罪ヲ償ヒ或ハ僻遠ノ地ニ移シテ人種ヲ樹ル等  
ノ事ニ至テハ便宜其方ヲ置シテ可ナリ議案尤  
至當トス

大略同論

清水八右衛門

生田四郎兵衛

赦ハ仁ニ似テ不赦ハ苛酷ニ類ス方今ニ在テハ  
民情輯穆ヲ先トス議ハ至當ト雖モ暫ク時ノ難  
易ヲ斟酌シ其機ニ投ズルモ亦可ナリ

堀江覺右門

同論

中川潜叟

今之ヲ廢スル一偏刻ニ過ン姑息ノ仁ニ似タレ  
先廢セザル方可ナラン 朝廷未ダ刑律御定  
制ニ至ラザルカ何レノ律ニモ精選ノ上議シテ

可ナラン

中澤見作

大赦ハ固ヨリ常經トナスベカラズ惟權宜ニ備  
ヘテ可ナラン赦ニ遇フテ悔悛スル者モアルニ  
シ然レドモ亦過日論ゼシ如ク異教ニ盪惑スル  
者ノ類嚴刑ニ處スルニ堪ズトイフ如キ事後世  
ニモ亦ナシト言フベカラズ右ノ類ハ大禮アル  
毎ニ死一等ヲ減ジ永牢セシメ其以下ハ墨刑ニ  
處シ遇赦ノ二字ヲ皮膚へ黥スル法ヲ立バ可然

カ

稻津 濟

赦ハ先聖ノ禁スル所數々赦スルキハ政ヲ害ス  
宜ク赦令ヲ廢止スベシ但シ冤獄或ハ悔悟ノ徒  
ハ其状ヲ審ニシ時ニ原免ニ從フハ此例ニ拘ハ  
ラザルベシ

内田仲之助

今革テ改正アラストモ妨ナカラン素ヨリ主人  
父母ヲ殺ノ類ハ赦令アルベキニアラザレバ其

他可濟程ノ義ニテ人安ンズル事ハヲクベキニ  
ヤ理ノミヲ以テ論ズルトキハ名實相反ルヲ舉  
テ不遑由テ不可也トス

友松勸之丞

今斷然之ヲ廢スルハ不可ナリ何トナレバ我國  
典刑甚ク嚴ナレドモ民之ヲ犯シテ止サルモノ  
ハ文教ノ明ナラザル故ナリ明ナラズシテ甚ク  
嚴ナルハ所謂教ヘズノ之ヲ殺スナリ赦令反テ  
仁政ニ非ザレドモ教ヘズノ殺スノ不仁ニ比ス

レバ猶勝レリ然則其不仁ノ弊ヲ去ルヲ今日ノ  
急務ナリ

人見秀雄

萬一國家至急不得止ノ時ニ臨テハ權ニ罪人ヲ  
宥シ役使シテ可ナランカ常ニ吉凶ノ大禮ニヨ  
ツテ宥スハ決シテ不可ナリ

兒玉精

罪アルモノ何ゾ赦サル、ノ理アランヤ刑憲正  
シケレバ民善ニ勸ミ惡ニ懲ル若罪アルモ償金

ヲ以テ之ヲ赦サル、如キコアル時ハ後世必ス  
弒逆ノモノ償金ヲ以赦ヲ乞ニ至ン願クハ先王  
之法ニ從ヒ刑律ヲ正サン

村田忠之丞

従前ノ如ク出格ノ御大禮アル毎ニ成丈赦令ヲ  
被行モ可ナリ

西村捨三

此議至當ト云ベシ雖然方今天下困窮人心偷薄  
ノ極ニ至ル故ニ理財ノ道ヲ隆興シ衣食足禮節

ヲ知ルノ地位ニ至ラシメ然ル後公平至當千歳  
不拔ノ刑典ヲ確立シ大赦ノ典ヲ廢シテ可ナル  
ベシ

石原正三郎

此議間然ナシ然レドモ御國體基礎確立刑典ノ  
法則定ルヲ俟ツテ廢スルモ遲カラス

奥村權之助

右不經ニ似タレドモ必竟仁政ヨリ出ル常典ナ  
レバ廢セズシテ可ナラン



安島解三

右允當ナリ 朝廷大禮アル時縦囚ノ事アルハ  
一時恩ヲ施行スルノミニシテ永世ノ刑律ヲ破  
ル廢シテ可也

入江 事

吉凶ノ大禮アル毎ニ出ル所ノ赦令ハ廢スベシ  
不時ノ赦ハ  
聖主ノ深慮ニテ時々施スベシ

田代 環

刑ヲ行フハ固ヨリ不得止ニ出ヅ故ニ大禮アル  
毎ニ赦令ヲ行ヒ罪一等ヲ減ズ然レバ大逆不道  
ノ外ハ大禮毎ニ大赦ヲ行ハル、モ妨ナカラシ  
且其罪ニヨリテ徒刑ニ命ジ礦山開墾等ノ律ヲ  
定メバ御仁恤ト云ミシ方今維新ノ際廢止ノ議  
アラバ愚夫ノ輩望ヲ失ハシ

戸田 保

罪人ヲ放ツトハ死刑ヨリ以下カト思ハル然ル  
キハ従古ノ典ニテ閣クモ妨ナキニ似タリ

赤岸兵藏

姑ク從來ノ如ク赦令アリ專ラ刑罰ノ從リ生ス  
ル處ノ源ヲ塞ギ後ニ此議案ノ如クセバ可ナリ

鈴木才藏

御即位等ノ吉禮ニ付赦令アルハ一概ニ廢スベ  
カラズ但凶禮ノ赦ニ至テハ廢止スベシ

野々村倫奎門

赦令ヲ廢止スルハ不仁ノ如ク聞ヘ衆庶患ヘ人  
心ヲ損スル害トナランカ方今人和大切ノ折柄

コノ議差置テ可ナリ 皇道盛ニ衆庶御仁恤ニ  
化シ各其處ヲ得バ刑人ナキニ至ラン

但シ既ニ赦サレシ者モ無産ニテハ惡ヲナ  
シ易ク候間以來其處ノ役人へ渡シ或ハ父  
兄親類等ニ令ヲ下シテ渡世ノ種ヲ施シ善  
人ニナサシメ時宜ニ依テハ米錢ヲ賜フ事  
モアルベキカ

小關與右衛門

赦令廢止ノ議允當ナリ佞佛ニ出ルノ事ハ固ヨ

リ論ズルニ足ラズ然レドモ國家非常ノ機ニ臨  
テハ赦令亦常典ヲ以テ論ズ可ラザル者アラシ

錦織四郎大夫

大禮アル毎ニ赦令ヲ行ヒ罪人ヲ放ツヲ以テ不  
經ニ屬スト云ハ可ナリ然レドモ之ニ因テ赦ヲ  
廢止スルハ不可ナリ赦モ時有テ行フベシ藤原  
兼實曰肆赦ハ雖明主之所慎亦時有所宜余ハ此  
言ヲ以テ確論トス  
大畧同論ノ者

成田作左衛門

北村經藏

櫻庭太次馬

田邊確

青山七郎左衛門

川西六三

大禮毎ニ赦令ヲ行フヲ常典トスルハ削除スベ  
シ罪狀ノ故ニ由リ赦スルハ非常典ニシテ豫メ  
議ス可ラス且古今ノ律ヲ參考シテ刑律ヲ立惡  
逆或ハ私鬪シテ人ヲ殺傷スルハ何々ノ刑罰又  
竊盜スルハ抵罪位ノ大科目ハ揭示シテ衆ニ示  
シタシ

塚本九一郎

赦ハ上之<sup>レ</sup>士君子由テ<sup>レ</sup>宥ヲ脱シ下之<sup>レ</sup>庶人罪ヲ悔  
ヒ新ニセント欲スルノ道ヲ開キ人々ヲシテ恩  
ニ感ビシム屢スレバ弊ナカラズト雖モ之ヲ廢  
止スルハ不可ナリ況ヤ  
列聖ノ常典ナルヲヤ

河口市之進

吉凶大禮毎ニ赦スルハ不經ト云ベシ然レドモ  
其中先非ヲ悔テ良善トナル者アリ是等ヲ赦ス

ハ人君至誠ノ仁惠ト云ベシ一概之ヲ廢セバ恐  
ラクハ人情ニ適セズ薄キニ失スルノ弊アラシ  
惟罪ノ輕重善惡ヲ問ハズ悉ク放チ良民ヲ害フ  
如キハ一切御改正アルベシ

笠間英之進

吉凶ノ大禮毎ニ赦ヲ行フテ常典トナス是天下  
ト更始スルノ義ナレバ強テ廢スベカラズ然レ  
ドモ博徒攫客ノ類赦ヲ幸トシテ惡事ヲ成スモ  
アレバ善盡ストモ云難シ故ニ數赦ス可ラズ宜

ニ適シテ可ナラン

長崎金七郎

同論

小林助右衛門

常典トスルハ不可ナリ其時ニ依リ非常寛典ニ  
處スル等ノ儀ハ無ル可ラズ

飯田逸之助

議案至當ナリ然レドモ天下非常ノ事アツテ不  
得已非常ノ恩ヲ行フハ亦用法ノ權ニシテ豫メ

議ス可ラズ

加藤右門

吉禮ト雖モ一人ノ悦ヲ以テ法律ヲ破ルベカラ  
ズ况ヤ凶禮ヲヤ是佛ノ蠱毒尤不經ト云ベシ世  
俗凶禮アレバ布施ト稱シ僧尼ニ禮シ以テ之ヲ  
供養ト云父母死シテ人ノ悦ヲ爲ス豈孝子ノ心  
ト云ンヤ之ヲ改テ可ナリ

岩本範治

救者偏枯之物ト云古語ノ一句ヲイデズ本文ノ

議允當ナリ然ル上ハ聽訟ノ者青災肆赦怙終賊  
刑ノ意ヲ以テ活用イタシ度候

小原兵部

同論

黒石涯

今急ニ赦法ヲ改メバ不仁ヲ唱ベシ

本日箱訃ヲ開閱ス

# 官版御用

御彫刻所

神田旅籠町二丁目

竹口瀧三郎

本町四丁目

御書物所

上州屋惣七

明治二年己巳六月

公議所日誌

第十九

公議所日誌第十九

六月七日會議ニ付例刻ヨリ議長大原少將副議長心得神田孝平議貞二百二十八人參聽之諸侯久松少將三宅備後守其外諸藩參聽人例席へ出仕例刻ヨリ議貞第十五號并ニ第十九號第廿號議案ノ可否ヲ決定セリ

但シ今般政體御改正ニ付 御下問有之議貞一同ノ定論ヲ立可奉拜答候ニ付本日評



論讀上延引之事

右ニ付草稿取調ノ為メ公選入札ニテ議貞  
十名ヲ撰ス

稻津 濟園田 保 新宮左太夫 服部清三郎

杉浦 誠 錦織四郎太夫 坂田 莠 生田小膳

雨森謙三郎 鎌田平十郎

第十五號赦令御廢止之議可否決定ノ藩々

可トスル者百六十人

岡田 成羽 郡上 小濱 足守 吉井 新見

福知山 狭山 福江 西尾 駿州 丹州田邊

田原 水口 庭瀬 壬生 烏山 峰山 綾部

三日月 開成學校 泉 湯長谷 麻生 大溝

三根山 高槻 小諸 久居 庄内 備後福山

西大平 淺尾 長島 松代 新谷 三州吉田

龍岡 今治 大野 足利 山崎 三草 宍戸

高島 龜田 田沼玄蕃頭 安志 舘林 小城

小見川 越前勝山 高遠 土浦 櫛良 矢島

多度津 飯山 丸岡 舉母 鳥羽 豫州吉田

豐岡	勢州龜山	柳河	丸龜	紀州田邊	津
作州勝山	平戸	三田	府内	宮川	佐土原
飲肥	山上	大垣	唐津	小松	杵築
安中	福本	下妻	加納	三日市	昌平學校
岩村	飯野	上山	守山	村岡	龍野
伊勢崎	彦根	大田喜	西端	大洲	宇和島
推谷	持木	宇土	與板	高鍋	苗木
林田	八戸	麻田	佐竹	秋月	敦賀
大田原	生實	出石	赤穂	藝州	大垣新田
					薦野
					人吉

荻野山中	川越	西條	宇都宮	牛久	臼杵
飯田	鶴舞	佐野	長瀬	今尾	膳所
上田	吹上	西大路	大聖寺	高崎	久留里
喜連川	佐倉	小倉新田	三池	高田	加州
蓮池	富山	常州府中	田原本	荻屋	鹿島
高德	沼田	米澤	岡山新田	津和野	高取
山家	姫路				
	舌トスル者	四十三人			
岡崎	高知新田	志筑	丹南	三春	岸和田

公議所日誌十九

三

小田原	古河	笠間	高松	熊本新田	一宮	前橋	松本
肥後	半原	芝村	房州勝山	丹州龜山	園部	栢原	延岡
濱田	田安	平戸新田	新發田	母里	鯖江	島原	伯太
尼ヶ崎	小野	岡	花房	尾州	三上	鶴牧	柴山
笹山	越前		岩槻	宮津	新庄	櫻井	堀江
久留米	長尾		高富	淀	柳生	阿州	高岡
	中村				柳本	土州	雲州

可否相半スル者十八人

須坂 廣島新田 一槁 七日市 森  
 依テ可ト決シ候事  
 第十九號身體へ黥スルヲ禁之議

備中淺尾議貞 坪和錦蔵

俗ニ鳶ノ者駕籠舁渡リ中間ト唱ル者元來無智  
 ナレハ父母ニ受得タル身體ノ大切ナルヲ知ラス裸  
 躰ヲ榮トシ膚ニ人物花鳥ノ黥ヲナシ自ヲ傷ルハ  
 愍ムヘシ且外國人ニ對シ甚恥ベキ事也亦罪ヲ犯  
 シタルモノ墨刑ノ跡ヲ消サンカ為メ畫圖ヲ黥スルアリ

サレハ刑典ニテ妨アルヘシ舊幕府ニ於テモ禁制ナ  
レ其本ヲ斷セサル故惡風止マサル也依テ其黥ヲ  
内職ニナス者ハ嚴刑ニ處セラルベキ旨豫メ揭示  
シ後犯スモノアラハ刑典ニ處シ衆ニ示シタマ  
ハ、相止ベク奉存候

右可否決定ノ藩々 右ハ評論ニ及バズ直チニ  
可否ヲ決スル者ナリ  
可トスル者二百二十六人

白石 岡 一槁 大垣新田 林田 豫州吉田  
推谷 薦野 敦賀 秋月 椿岱 麻田 八戸

芝村 笠間 高富 藝州 廣島新田 大田原  
赤穂 越前 肥後 土浦 越前勝山 多度津  
園部 一宮 出石 生實 小野 中津 三草  
糸魚川 館林 小城 鯖江 小見川 三根山  
三上 山崎 佐伯 新庄 龍岡 新谷 廣瀨  
土州 高知新田 備後福山 伯太 熊本新田  
久留米 福本 守山 高鍋 吉井 佐土原  
與板 大垣 龜田 高槻 麻生 富山 村松  
湯長谷 水口 田原 駿州 九龜 佐貫

岸和田	成羽	津和野	尼崎	山上	岡崎	宇土	柳本	紀州田邊
宇都宮	柴山	村上	三春	飢肥	館山	古河	烏山	八柳河
丹南	松本	米澤	七日市	加納	栢原	櫻井	丹州田邊	益岡
羽後松山	牛又	仙臺	荻野山中	栲倉	昌平學校	鶴牧	庭瀨	勢州龜山
淀	佐野	長岡	高德	前橋	唐津	杵筑	鳥羽	忍
鶴舞	山家	岡山新田	沼田	雲州	宇和島	森	小田原	綾部

上田	荊屋	人吉	上山	伊勢崎	結城	田安	延岡	川越
安	鹿島	大洲	岡田	須坂	下妻	吹上	黒石	志筑
大瀧	二本松	西端	柳生	岩村	作州勝山	宮川	郡上	高島
宮津	持木	大田喜	村岡	長尾	嶋原	壬生	飯田	完戸
小諸	安志	彦根	龍野	飯野	新發田	中村	小泉	參州吉田
久居	小倉新田	平戸新田	新宮	房州勝山	黒羽	峯山	津	西大路
笹山			苗木			丸岡	大聖寺	

西大平	府内	島	矢島	花房	丹州	龜山
高崎	高松	府内	今尾	白杵	膳所	長瀨
田原本	西條	大野	今治	平戸	常州	府中
三田	小濱	足守	母里	尾州	蓮池	高田
加州	三池	阿州	福江	高遠	田沼	玄蕃頭
狭山	福知山	新見	三日月	久留里	佐倉	
喜連川	西尾	豫州	松山			
否トスル者九人						
姫路	半原	舉母	黒川	櫛良	足利	堀江

高岡 岩槻

可否相半スル者一人

小松

依テ可ト決シ候事

第廿號利足ノ定限ヲ可廢止ノ議

刑法官判事試補 鈴木唯一

旧来金銀貸借ノ利足ハ六分ト申シ銀六十匁ニツ  
 キ六分ニテ金貳十五兩ナレハ利足壹分トナル俗ニ  
 之ヲ貳十ニト唱ヘ之ヲ御定メノ利足トナス然

レ共御定ハ利是ラテ貸借スル者ハ稀ニテ皆之  
ヨリ多シ只表向證文ニハ貳十五一ノ割合ニ書  
スルニ竊ニ按スルニ金錢ノ儀ハ有レ共收メテ貯蓄  
スレハ用ヲナサズ又無之レハ如何ナル大益ノ事ア  
ルモ辨スルアタハズ是ニ於テ金持ハ自ラ之ヲ實  
地ニ用ユルナケレバ之ヲ人ニ貸シテ利足ヲトル  
是レ利ヲ貪ルニ似タリト雖之ヲ世用ニ供スレハ空  
シク大寶ヲ蔵ムルニ勝レリ又之ヲ借ル者ハ之ヲ  
用ヒテ一時ノ窮ヲ凌キ又永久ノ大利ヲ得ルモ

有之ハ縦高利ヲ拂フモ聊カ意トセサル者アリサレハ  
金持ハ世ノ寶ヲ持ツ者ニシテ借ル者ハ世ノ寶ヲ  
流通スル者ナレハ借ル者ノ媒約ナケレハ金持モ之ヲ  
融通シテ世用ヲナスニ由ナカルヘシ勿論彼是皆一已  
ノタメニ計ルト雖自ラ世事ヲ撝取スナキニモ非ラス  
然レハ縦高利ヲトルモ又禁止スルニ足ラス且利足ノ  
高低ハ時ノ勢事ノ緩急等ニ從テ變動スルモ又自  
然ノ勢ニシテ之ヲ如何トモス可ラサル者アリ且利足  
ハ金ヲ使ハルノ返禮ニシテ地ヲ借リ家ヲ借リテ

地代家賃ヲ拂フモ一般ナリ然ルニ返禮ニ御定  
 ヲハ無之トモ差支ナカルヘキナレハ後來利足ノ御  
 定メハ御廢止ニシテ可然歟ト愚考仕候  
 右可否決定ノ藩々右ハ評論ニ及バズ直チニ  
 可トスル者五十八人

志筑 宮津 庄内 苗木 赤穂 笠間 三上  
 大垣新田 白石 八戸 秋月 大野 大聖寺  
 廣瀨 三春 膳所 今尾 高德 小泉 富山  
 岡山新田 加州 高田 豫州松山 小倉新田

高遠 狭山 古河 鶴牧 昌平學校 喜連川  
 唐津 山上 龜田 西端 湯長谷 羽後松山  
 安志 吹上 烏山 鯖江 中津 土浦 飯田  
 黒石 三州吉田 高嶋 伯太 柳本 三田  
 紀州田邊 丸龜 半原 豊岡 守山 高松  
 田沼玄蕃頭 敦賀  
 否トスル者百七十七人  
 丹後田邊 佐倉 結城 峯山 中村 久留里  
 壬生 庭瀬 尾州 高槻 麻生 安中 宇土



成羽	一宮	西條	伊勢崎	勢州龜山	龍岡	岩村	持木	三根山
松本	高岡	高取	作州勝山	越前	新宮	長尾	二本松	泉
臼杵	堀江	丹南	宇都宮	大田原	福本	飯野	彦根	水口
長瀨	舉母	園部	山家	丸岡	柳河	上山	大田喜	田原
牛久	鶴舞	多度津	越前勝山	宮川	肥後	岡田	大洲	宍戸
佐野	郡上	淀	延岡	姫路	下妻	柳生	佐土原	駿州
小城	柴山				鳥羽	村岡		高崎

推谷	高知新田	川越	新谷	阿州	山崎	岸和田
大溝	鹿島	荻野山中	備後福山	佐貫	常州府中	小野
林田	土州	仙臺	熊本新田	新見	蓮池	館林
黒川	田原本	長岡	七日市	吉井	三池	糸魚川
須坂	米澤	沼田	津和野	櫻井	福江	小見川
生實	村上	久留米		佐伯	福知山	三草
出石				龍野		

廣島新田 藝州 高富 岩槻 西大平 笹山  
 豫州吉田 芝村 小諸 久居 長島 宇和島  
 平戸新田 檜良 矢島 森 島原 忍 與板  
 館山 栢原 加納 飲肥 棚倉 大垣 前橋  
 三日市 小田原 雲州 尼崎 濱田 西大路  
 高鍋 津 淺尾 田安 丹州龜山 房州勝山  
 小松 新發田 黒羽 平戸 府内 西尾  
 小濱 足守 母里 綾部  
 可否相半スル者二人

新庄 一橋  
 依テ否ト決シ候事

第七號決議奉伺

天裁候書付

第七號民間所持船規則儀御採用相成可然旨衆  
 議一定仕候ニ付奉伺  
 天裁候若シ御刪正ノ廉有之候節ハ勿論御採用  
 之有無共御垂示之上御施行有之度候也

五月

議長

猶以御垂示ノ節ハ議案二枚ノ内一枚へ御採用  
ノ有無共御檢印ノ御附札有之度候也

第九號決議奉伺

天裁候書付

第九號天主教ヲ毆之儀ハ可然但右ニ付嚴刑ヲ  
行ヒ候儀ハ不可然旨衆議一定仕候ニ付奉伺  
天裁候御施行相成候節ハ御採擇有之度候也

五月

議長

第十一號決議奉伺

天裁候書付

第十一號火葬御廢止之儀御採用云々以下第七號  
同文言

第十三號決議奉伺

天裁候書付

第十三號鎮守府將軍ヲ可置之儀御採用云々以下  
同文言

第七號  
同文言

第十四號決議奉伺

天裁候書付

第十四號新規株式御許之儀御採用云々以下第七號  
同文言

# 官版御用

御彫刻所

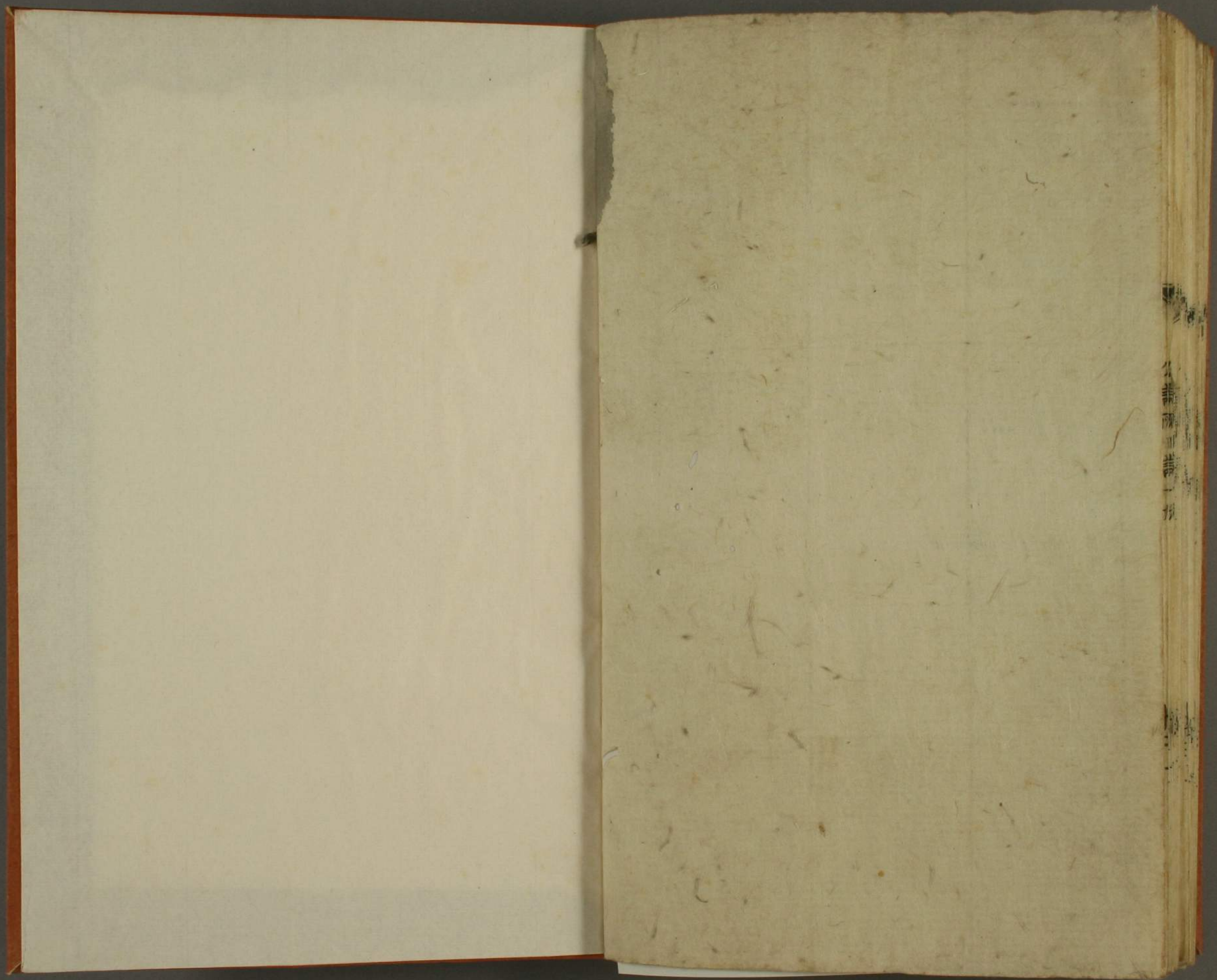
神田旅籠町二丁目

竹口瀧三郎

本町四丁目

御書物所

上州屋惣七



公請兩可詩一規

